



Migration Portal

リリース **2.8**

User's Guide

2020 年 06 月 30 日

目次

第 1 章	新機能	2
第 2 章	サポートされているバージョン	5
第 3 章	EDB 移行ポータルの使用	6
3.1	移行ポータルのホームページの概要	8
3.2	移行ポータルプロジェクトページの概要	10
3.3	移行ポータル Wiki ページの概要	13
第 4 章	データベースの移行	14
4.1	スキーマ抽出の実行	15
4.1.1	サポートされるオブジェクトタイプ	18
4.1.2	サポートされていないオブジェクトタイプ	18
4.1.3	Oracle システムスキーマ	19
4.2	スキーマ評価の実行	20
4.2.1	評価レポートの生成	25
4.3	スキーマの移行	28
4.3.1	CDS クラスターへのスキーマの移行	29
4.4	データ移行	32
第 5 章	高度なデータ移行	33
第 6 章	結論	34
索引		35

EDBPostgres™ 移行ポータル（移行ポータル）は、Oracle データベーススキーマを EDBPostgres™ プラットフォームに移行するための Web ベースのサービスです。移行ポータルは、Oracle データベーススキーマを評価および分析し、タイプ、テーブル、シーケンス、Constraints、トリガー、ビュー、ストアドプロシージャ、パッケージ、dblinks、マテリアライズドビュー、およびインデックスを変換し、EDBPostgres™AdvancedServer と互換性のある DDL を生成します。

使いやすいポータルインターフェイスにより、移行が簡単になります。ポータルにログオンし、移行プロセスを開始します。

EDBPostgres™ 移行ポータルガイドでは、移行プロセスに関連する手順の概要を説明しています。このガイドには、一般的な移行の問題の解決策、サポートされていない機能の詳細、およびそれらの潜在的な回避策も含まれています。

EnterpriseDB は、企業が既存のデータベースシステムを Postgres に移行するのを長年支援してきました。詳細については、次の EnterpriseDBWeb サイトにアクセスしてください。

<https://www.enterprisedb.com/>

新機能

このリリースでは、EDBPostgres™ 移行ポータルに次の拡張機能が追加されています。

- Project Compatibility ゲージは色分けされており、どのプロジェクトが最も互換性があるかが一目でわかります。完全に互換性のないプロジェクトを手動で修正するか、EDB の担当者に連絡して支援を求めることができます。

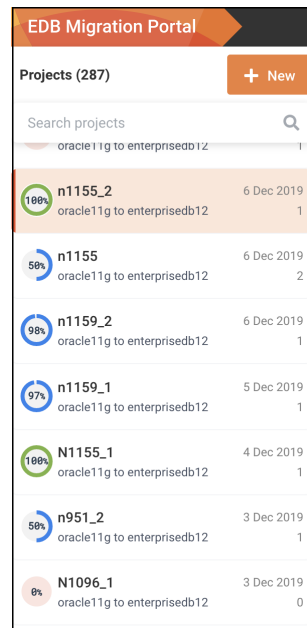


図 1 プロジェクト互換性ゲージ。

- 緑は 100 % 互換性を示します
 - 青色は、31～99 % の互換性を示します
 - 赤は 0 % から 30 % の互換性を示します
- スキーマの評価中に問題が発生した場合は、EDB の担当者にお問い合わせください。メッセージボックスで移行サービスのメール ID をクリックできます。システムのデフォルトの電子メールクライアントからのドラフトは、件名と本文が事前に入力された状態で開き、リクエストをドラフトする時間を節約できます。

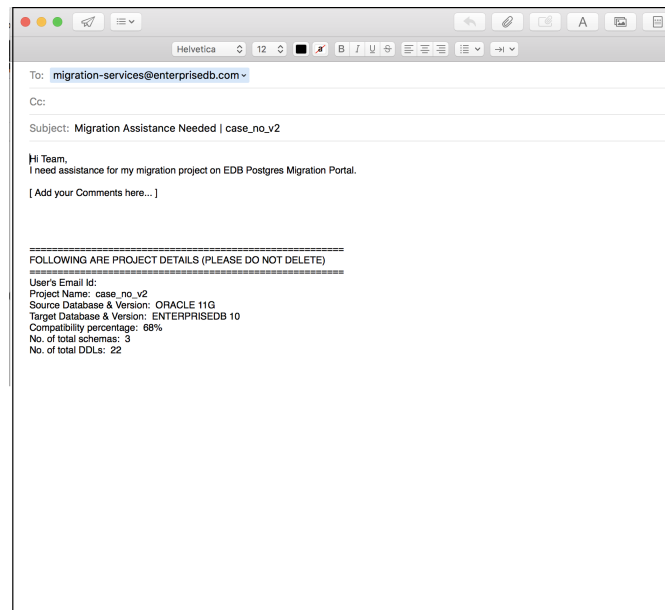


図 2 EDB 担当者にお問い合わせください。

- FAQ ページは、最新のよくある質問で更新されます。次のリンクを使用して、FAQ にアクセスします。

<https://www.enterprisedb.com/migration-portal-faqs>

- ユーザーエクスペリエンスを向上させるために、新しい UI に多くの変更が加えられました。

新しい修理ハンドラ

AdvanceServer の互換性比率を向上させるために、次の修復ハンドラーが追加されました。

- ERH1012-ステートメントエイリアスの挿入:

PL/SQL ブロック内の INSERT ステートメントからエイリアス名とエイリアス名の参照を削除します。

例えば:

```
CREATE OR REPLACE PROCEDURE REMOVE_ALIAS_TEST (IN_PARAM VARCHAR2)
IS
  V_VAR    NUMBER (12, 0);
BEGIN
  INSERT INTO TABLE_NAME ALIAS_NAME (ALIAS_NAME.ID,
    ALIAS_NAME.NAME)
    VALUES (1,
      'test');
END;
```

になるだろう;

```
CREATE OR REPLACE PROCEDURE REMOVE_ALIAS_TEST (IN_PARAM VARCHAR2)
IS
  V_VAR    NUMBER (12, 0);
BEGIN
  INSERT INTO TABLE_NAME (ALIAS_NAME.ID,
    NAME)
    VALUES (1,
      'test');
END;
```

新しいナレッジベースエントリ

以下は、新しいナレッジベースエントリです。回避策の詳細については、移行ポータルのナレッジベースのセクションを参照してください。

- **UTL_I18N.STRING_TO_RAW** および **UTL_I18N.RAW_TO_CHAR** パッケージ関数:

In Oracle, UTL_I18N.STRING_TO_RAW function is used to convert VARCHAR2 or NVARCHAR2 string to another character set and returns the result as RAW data and UTL_I18N.RAW_TO_CHAR function is used to convert RAW data that is not encoded in the database character set into a VARCHAR2 string. However, in Advanced Server encode and decode functions are used to convert VARCHAR2 or NVARCHAR2 string to RAW data and vice-versa.

第 2

サポートされているバージョン

移行ポータルは、Oracle11g および 12c から EDBAdvancedServer10、11、または 12 への評価と移行をサポートしています。移行ポータルは、次のブラウザーとオペレーティングシステムでサポートされています。

サポートされているブラウザ

最高のユーザーエクスペリエンスを実現するには、GoogleChrome ブラウザーの使用をお勧めします。移行ポータルは、次のブラウザーでもサポートされています。

ブラウザ	サポートされているバージョン
MacintoshOS 上の AppleSafari	11 以上
グーグルクローム	68 以上
マイクロソフトエッジ	42 以上
MozillaFirefox	60 以上

サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン
マッキントッシュ	OSX シエラ
ウィンドウズ	10
Linux	CentOS7

EDB 移行ポータルの使用

移行ポータルを使用すると、データベーススキーマを Oracle から AdvancedServer に簡単に移行できます。評価用のスキーマをアップロードして、すぐにフィードバックや提案を得ることができます。ポータルでは、すべてのオブジェクトの評価済み DDL をダウンロードして、オンプレミスまたはクラウドで EDBPostgres™ データベースを作成できます。

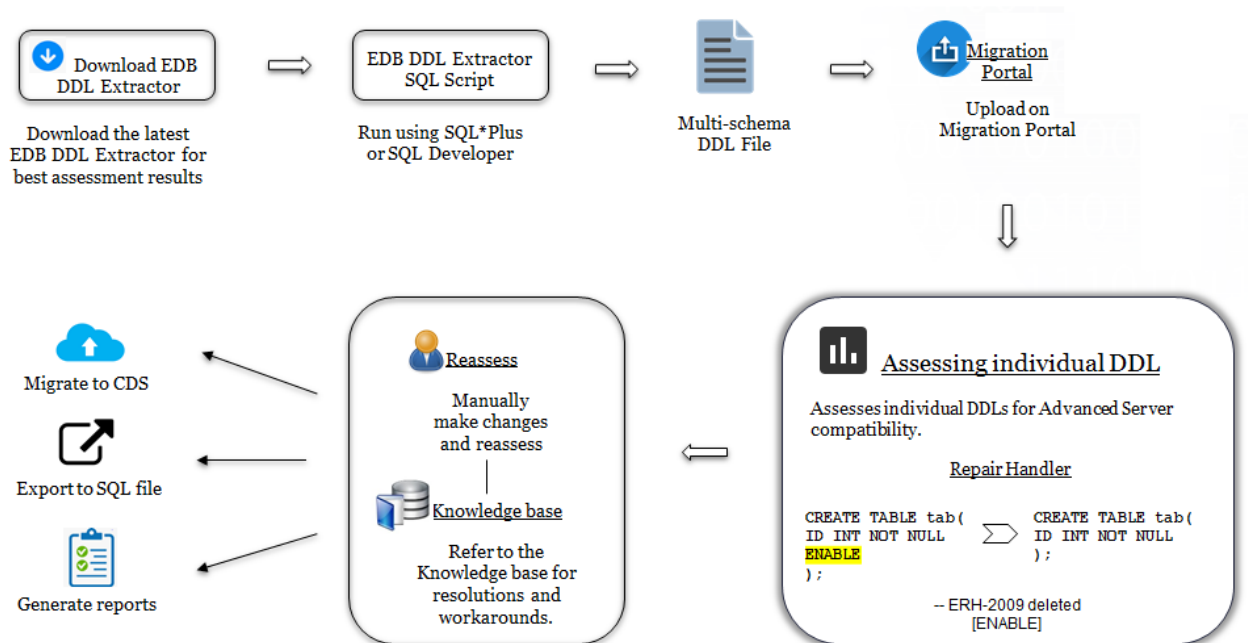


図 1 評価と移行プロセス

移行ポータルにアクセスするには:

1. ブラウザを開き、<https://www.enterprisedb.com/>に移動します
2. EnterpriseDB ホームページで、Enterprise Postgres & EDB Postgres Migration Portal をクリックします。

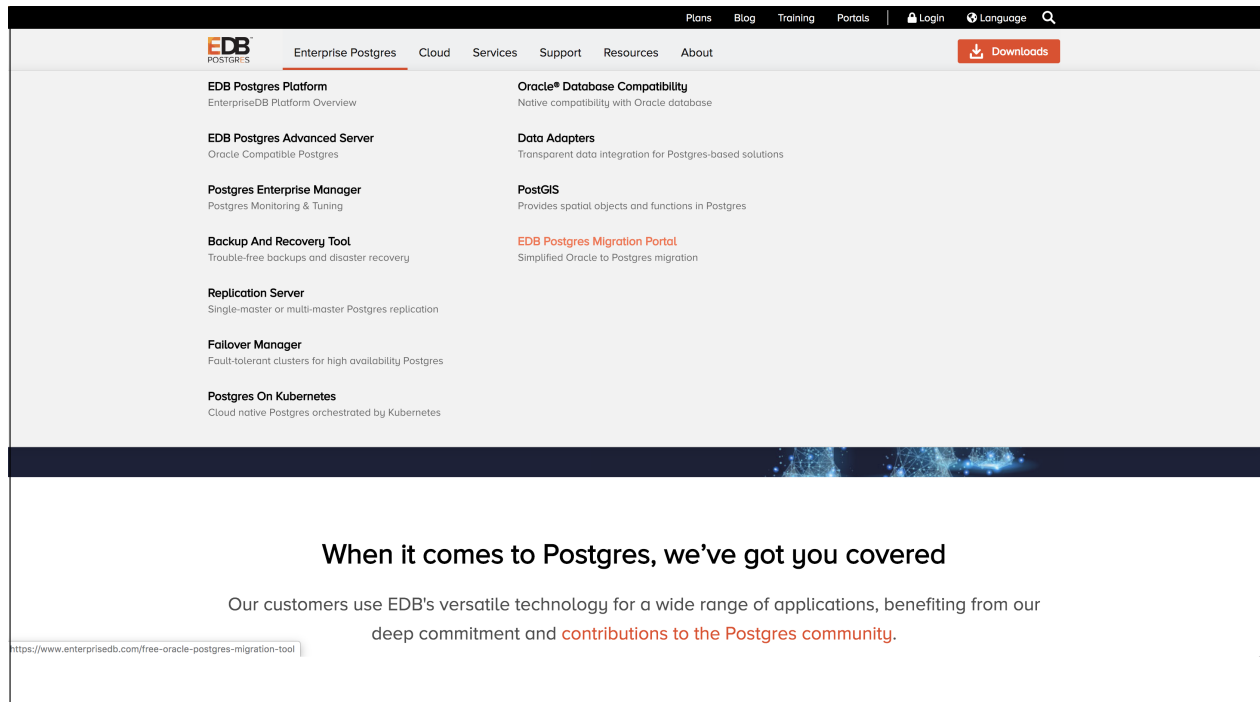


図 2 移行ポータルへのアクセス。

3.1 移行ポータルのホームページの概要

移行ポータルのホームページから、移行ツールにすばやくアクセスできます。

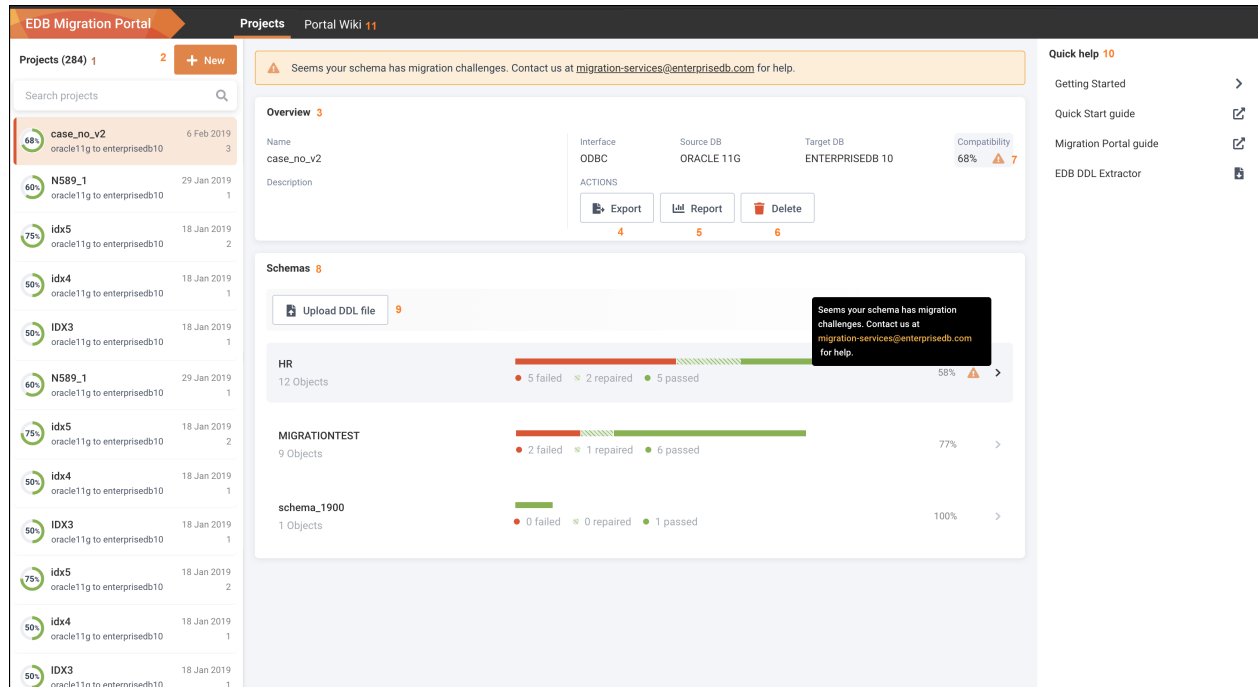


図 3 移行ポータルのホームページ。

移行ポータルのホームページから、次の移行ポータル機能にアクセスできます。

1. プロジェクト:Projects パネルには、評価されたプロジェクトのリストが表示されます。
2. プロジェクトを作成:+ New (Projects ラベルの右にあるボタン)をクリックして、新しいプロジェクトを作成します。
3. 概要:Overview パネルには、選択したプロジェクトに関する詳細が表示され、スキーマ評価後の互換性の割合が表示されます。
4. エクスポート:Export ボタンを使用して、AdvancedServer 互換の .sql ファイルをダウンロードするか、スキーマを EDBCloudDatabaseServices クラスタに移行します。
5. レポート:スキーマ評価レポートを表示およびダウンロードするには、Report ボタンを使用します。
6. 削除:選択したプロジェクトを削除するには、Delete ボタンを使用します。
7. 警告サイン:プロジェクトまたはスキーマの互換性が 70 %未満の場合、または複数の試行後に DDL が成功しない場合、警告メッセージが表示されます。
8. DDL ファイルのアップロード:新規または追加の DDL ファイルをアップロードするには、Upload new schema ボタンを使用します。

9. スキーマ:Schemas パネルには、アップロードされた DDL ファイルからの評価結果が表示されます。
10. クイックヘルプ:Quick help パネルにはすべてのヘルプガイドが含まれています。
11. ポータル Wiki:Portal Wiki には、製品情報やさまざまなヘルプガイドへのリンクがあります。

3.2 移行ポータルプロジェクトページの概要

移行ポータルプロジェクトページには、移行に関する詳細情報が表示されます。

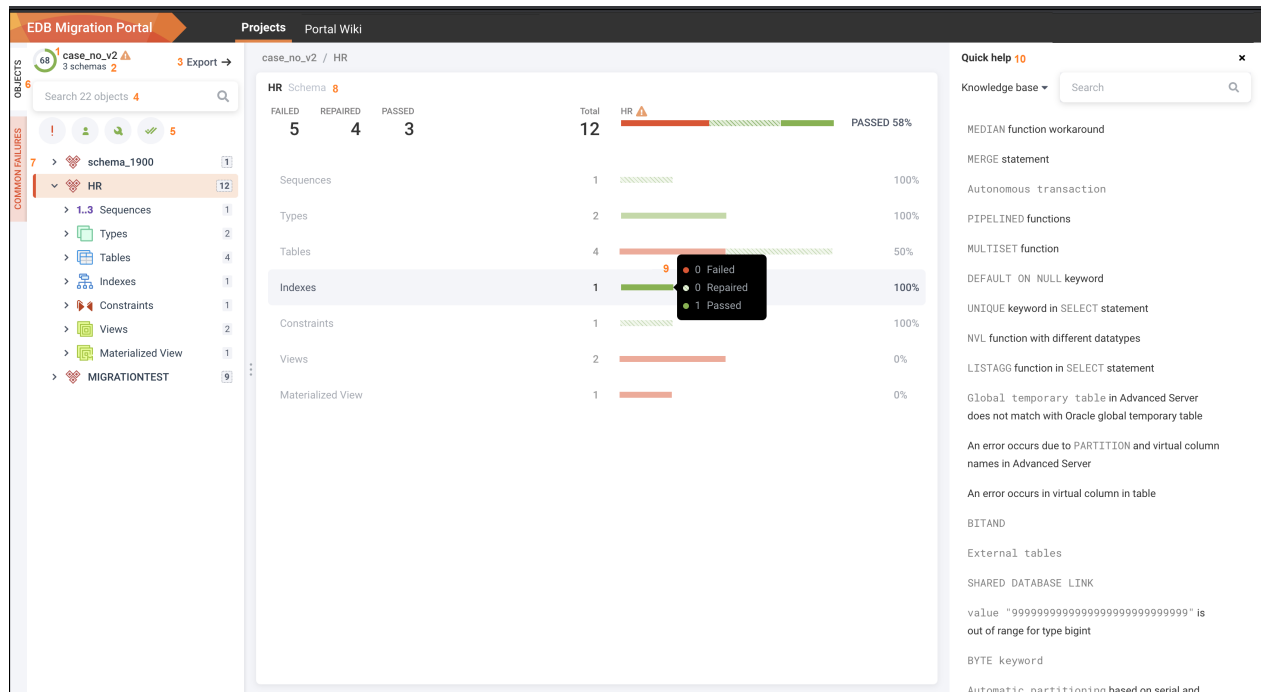


図4 移行ポータルのプロジェクトページの概要

次のリソースを使用して、移行プロジェクトに関する情報を収集します。

1. 互換性:Compatible ゲージは、評価されたスキーマの互換性のパーセンテージに基づいて色を表示します。
2. スキーマ数:プロジェクト内のスキーマの数を表示します。
3. エクスポート:Export アイコンを使用して、.sql ファイルをダウンロードするか、スキーマを*EDB-CloudDatabaseService*クラスターに移行します。
4. オブジェクトの検索:オブジェクトを検索するには、Search ボックスを使用します。
5. フィルタ:システムの修復されたオブジェクトと手動で修復されたオブジェクトを [プロジェクト] ページの左側のパネルからフィルタリングできます。さらに、1 つ以上のフィルタの組み合わせを選択して情報を絞り込むことができます。
6. オブジェクト:選択したスキーマのオブジェクトを表示します。
7. 一般的な失敗:選択したスキーマでオブジェクトが失敗した理由を表示します。

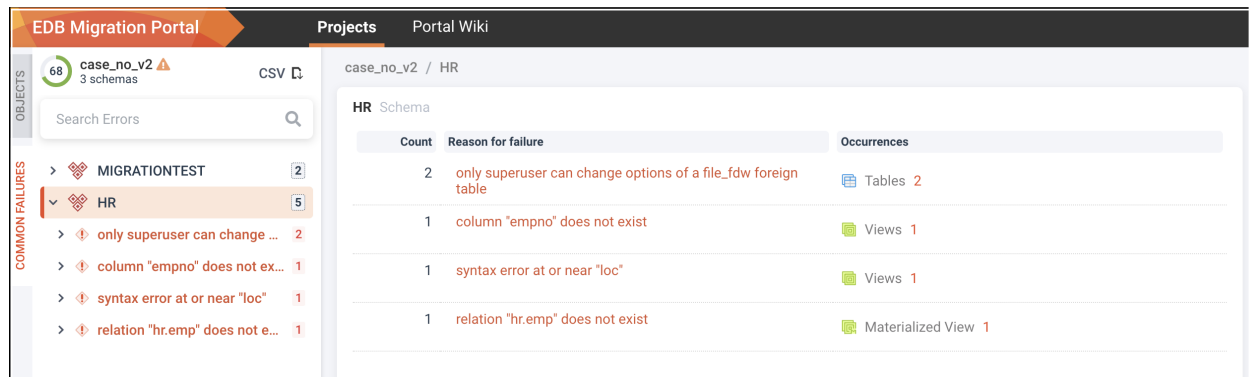


図 5 一般的な失敗タブ

注釈: プロジェクトの一般的な失敗の CSV ファイルをダウンロードできます。

- スキーマ:Schema パネルには評価の結果が表示されます。
- ツールチップ:結果セットにカーソルを合わせると、成功、失敗、および修復されたオブジェクトの数を示すツールチップが表示されます。
- クイックヘルプ:Quick help パネルには、ナレッジベースの記事と修復ハンドラーのドキュメントへのリンクが表示されます。
- 検索:Search ボックスを使用して、Knowledge base エントリまたは修理ハンドラーのドキュメントで特定の情報を検索します。

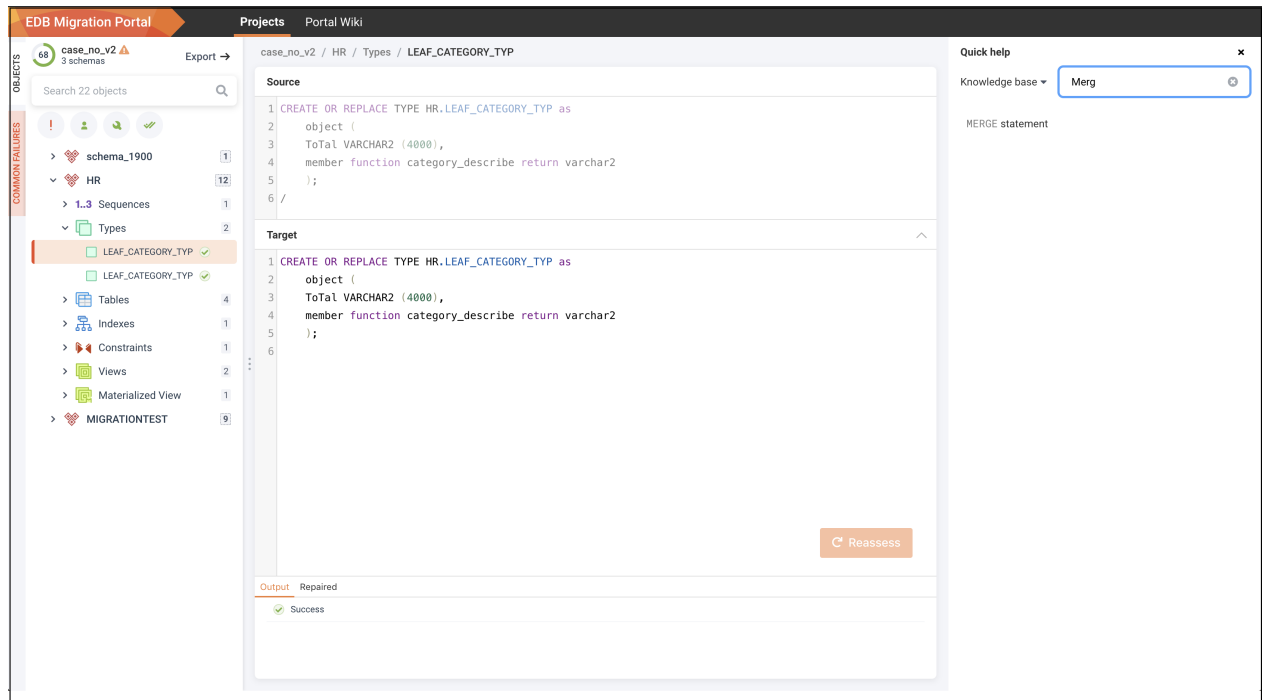


図 6 ナレッジベースのエントリを検索しています。

3.3 移行ポータル Wiki ページの概要

ポータル Wiki ページから情報にすばやくアクセスできます。

- 新着情報
- クイックスタートガイド
- 移行データガイド
- DDL 抽出ガイド
- 知識ベース
- Repair handlers
- 移行ポータルユーザーガイド
- よくある質問

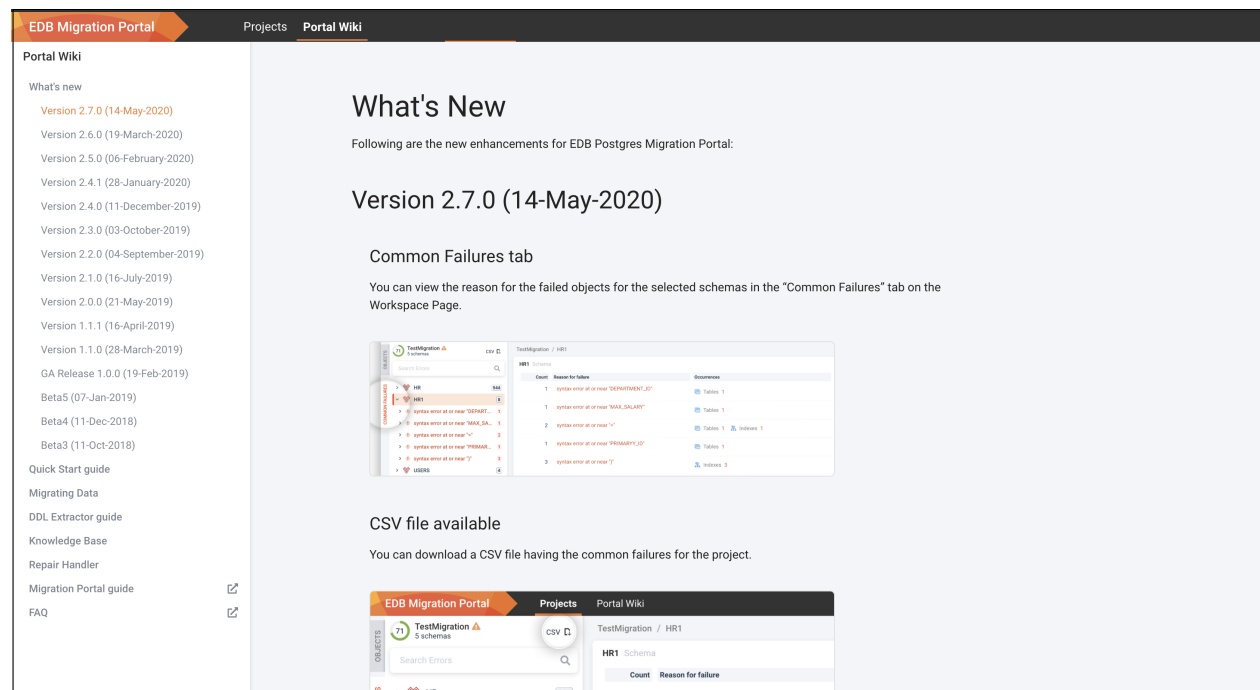


図 7 移行ポータルの Wiki ページ。

データベースの移行

データベースを移行するには、次の手順を完了する必要があります。

1. スキーマ抽出を実行する。
2. スキーマ評価を実行する。
3. スキーマの移行を実行する。
4. データ移行を実行する。

次のセクションでは、移行プロセスの各ステップについて詳しく説明します。

4.1 スキーマ抽出の実行

前提条件

スキーマを抽出する前に、移行ポータルの Projects ページまたはポータル Wiki の DDL 抽出ガイドで提供されているリンクから最新の EDBDDL 抽出スクリプトをダウンロードする必要があります。スクリプトは、SQLDeveloper または SQL*Plus で実行できます。Oracle の DBMS_METADATA 組み込みパッケージを使用して、(スクリプトの実行中に指定された) スキーマの下さまざまなオブジェクトの DDL を抽出します。EDBDDL エクストラクターは、ポータルにアップロードされ、EDBPostgres の互換性について分析される DDL ファイルを作成します。

注釈: *scriptuser* は CONNECT、RESOURCE、SELECT_CATALOG_ROLE の役割を持っている必要があります。

SQL*Plus の場合

1. SQL*Plus に接続し、次のコマンドを実行します。

```
SQL>@edb_ddl_extractor.sql
```

2. スキーマ名と、抽出プログラムが抽出した DDL を格納する path/directory を指定します。複数のスキーマを抽出するときは、区切り文字としてコンマ (','、';') を使用します。

注釈: 現在のデータベースからすべてのユーザースキーマを抽出する場合は、抽出中にスキーマ名を指定しないでください。ただし、抽出するスキーマ名を記載することをお勧めします。

3. 他のスキーマから依存オブジェクトを抽出する場合は、yes または no を入力します。

たとえば、Linux の場合:

```
Enter SCHEMA NAME[S] to extract DDLs:
```

```
HR, SCOTT, FINANCE
```

```
Enter the PATH to store DDL file:
```

```
/home/oracle/extracted_ddls/
```

```
Extract dependent objects from other schemas? (yes/no):yes
```

Windows の場合:

```
Enter SCHEMA NAME[S] to extract DDLs:
```

```
HR, SCOTT, FINANCE
```

Enter the PATH to store DDL file:

C:/Users/Example/Desktop/

Extract dependent objects from other schemas? (yes/no):yes

SQL 開発者向け

1. SQL サーバーに接続し、次のコマンドを実行します。

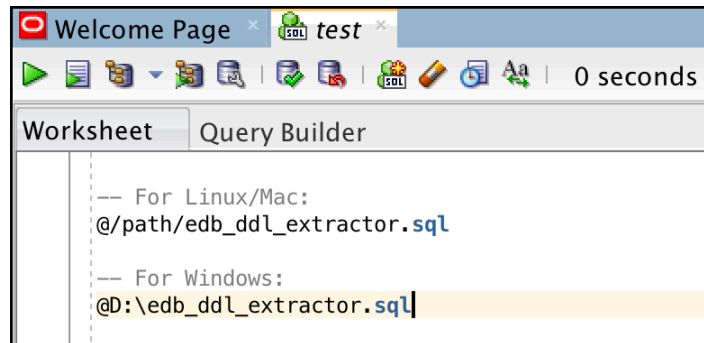


図 1 Linux または Windows のパスを入力します。

2. スキーマのコンマ区切りリストを入力します。

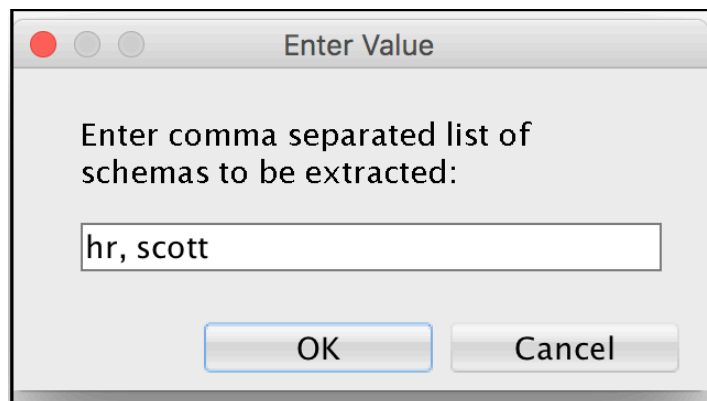


図 2 スキーマのリストを提供します。

3. 出力ファイルのファイルパスを入力してください:

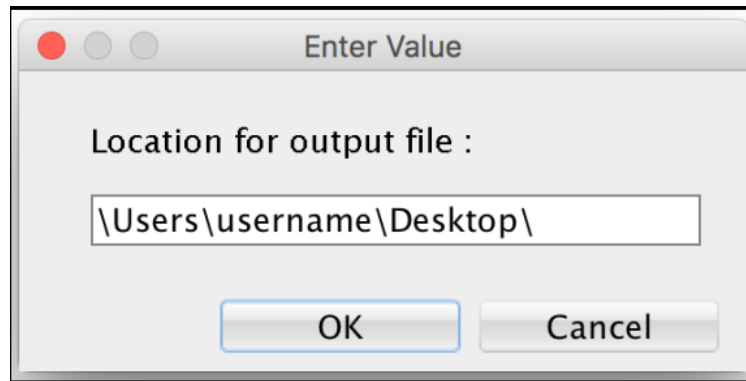


図3 出力ファイルのパスを指定します。

4. 他のスキーマから依存オブジェクトを抽出しますか？（はい/いいえ）:yes

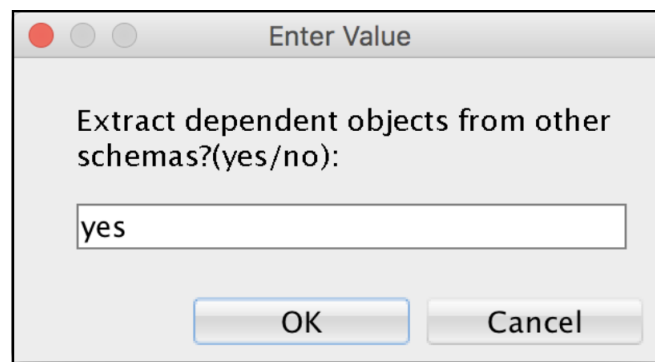


図4 依存オブジェクトを抽出しています。

注:SQL*Plus ツールと SQLDeveloper ツールの両方で単一のスキーマ名を入力することもできます。

5. スクリプトはソースデータベースのオブジェクトタイプを反復処理し、タスクが完了すると、.SQL 出力は入力された場所、つまり c:/Users/Example/Desktop/ に格納されます。

その他の注意事項

- EDBDDLExtractor は、次のような名前のオブジェクトを抽出しません。

```
BIN$b54+4XIEYwPgUAB/AQBWwA= =$0
```

これらのオブジェクトを抽出するには、オブジェクトの名前を変更して、抽出プロセスを再実行する必要があります。

- DDLExtractor は nologging テーブルを通常のテーブルとして抽出します。これらのテーブルが AdvancedServer に移行されると、WAL ログファイルが作成されます。

4.1.1 サポートされるオブジェクトタイプ

移行ポータルは、次のオブジェクトタイプの移行をサポートしています。

- Synonyms
- DB リンク
- タイプとタイプ本体
- シーケンス
- テーブル
- Constraints
- インデックス (LOB インデックスとマテリアライズドビューのインデックスを除く)
- ビュー
- マテリアライズドビュー
- トリガー
- 関数
- Procedures
- パッケージ

注釈: 列、テーブル、マテリアライズドビューのコメントがサポートされています。

4.1.2 サポートされていないオブジェクトタイプ

- エディション
- オペレーター
- スケジューラー
- LOB インデックスとマテリアライズドビューのインデックス
- XML スキーマ
- プロフィール
- 役割とオブジェクトの付与

- テーブルスペース
- ディレクトリ
- ユーザー
- RLS ポリシー
- キュー

4.1.3 Oracle システムスキーマ

EDBDDLExtractor スクリプトは、Oracle からの抽出中に次のシステムスキーマを無視します。

ANONYMOUS	APEX_PUBLIC_USER	APEX_030200
APEX_040000	APEX_040000	APPQOSSYS
AUDSYS	BI	CTXSYS
DMSYS	DBSNMP	DIP
DVF	DVSY	EXFSYS
FLows_FILES	FLows_020100	GSMADMIN_INTERNAL
GSMCATUSER	GSMUSER	IX
LBACSYS	MDDATA	MDSYS
MGMT_VIEW	OE	OJVM
OLAPSYS	ORDPLUGINS	ORDSYS
ORDDATA	OUTLN	ORACLE_OCM
OWBSYS	OWBYSS_AUDIT	PM
RMAN	SH	SI_INFORMTN_SCHEMA
SPATIAL_CSW_ADMIN_USR	SPATIAL_WFS_ADMIN_USR	SYS
SYSBACKUP	SYSDG	SYSKM
SYSTEM SYSMAN	TSMSYSWKPROXY	WKSYS
WK_TEST	WMSYS	XDB
XS\$NULL		

4.2 スキーマ評価の実行

AdvancedServer との互換性について Oracle データベーススキーマを評価するには、以下を実行する必要があります。

1. `移行ポータルに移動します<<https://migration.enterprisedb.com>>`。
2. EDB 資格情報を入力します。
3. CREATE PROJECT アイコンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。

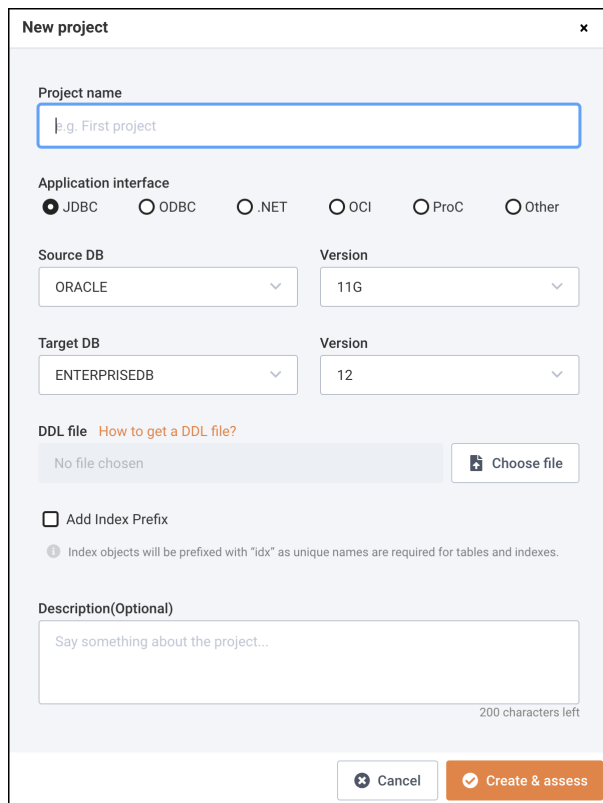


図 5 移行ポータルの新しいプロジェクトダイアログ。

4. New project ダイアログで、Project name フィールドにプロジェクト名を入力します。
5. プロジェクトの詳細を指定します。
 - Application interface の横にあるラジオボタンを選択します。
 - ソースとして Source DB と Version を選択します。
 - ターゲットに Target DB と Version を選択します。
6. Choose file をクリックして、OracleDatabase の最新の EDBDDLExtractor によって生成された.SQL ファイルをアップロードします。

注意:

- .SQL ファイルは変更しないでください。
- 最新の EDBDDLExtractor によって生成された .SQL ファイルのみをアップロードできます。

詳細については、:doc:`スキーマ抽出を参照してください<mp\_schema\_extraction>`セクション。

7. AdvancedServer ではテーブルとインデックスに同じ名前がサポートされていないため、プロジェクトを作成するときに Add Index Prefix の横のボックスをオンにして、インデックスのプレフィックス (idx) を指定して、より良い評価結果を確認します。

8. Create & assess をクリックして新しいプロジェクトを作成し、スキーマを評価します。

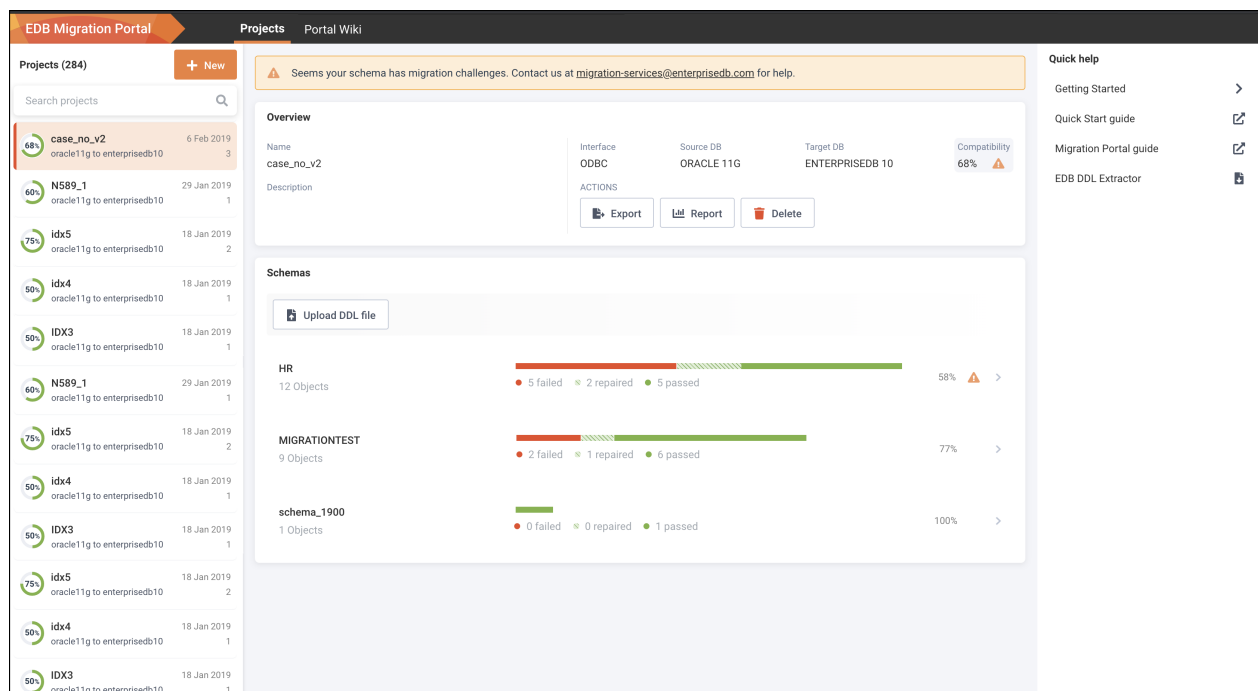


図 6 スキーマ分析結果。

分析ツールは、すべての構造を確認し、修復アクションを実行して AdvancedServer との互換性を向上させ、手動による介入が必要な残りのエラーにフラグを立てます。

9. 100 %の成功率を示さない DDL オブジェクト（たとえば、TABLES）を確認します。

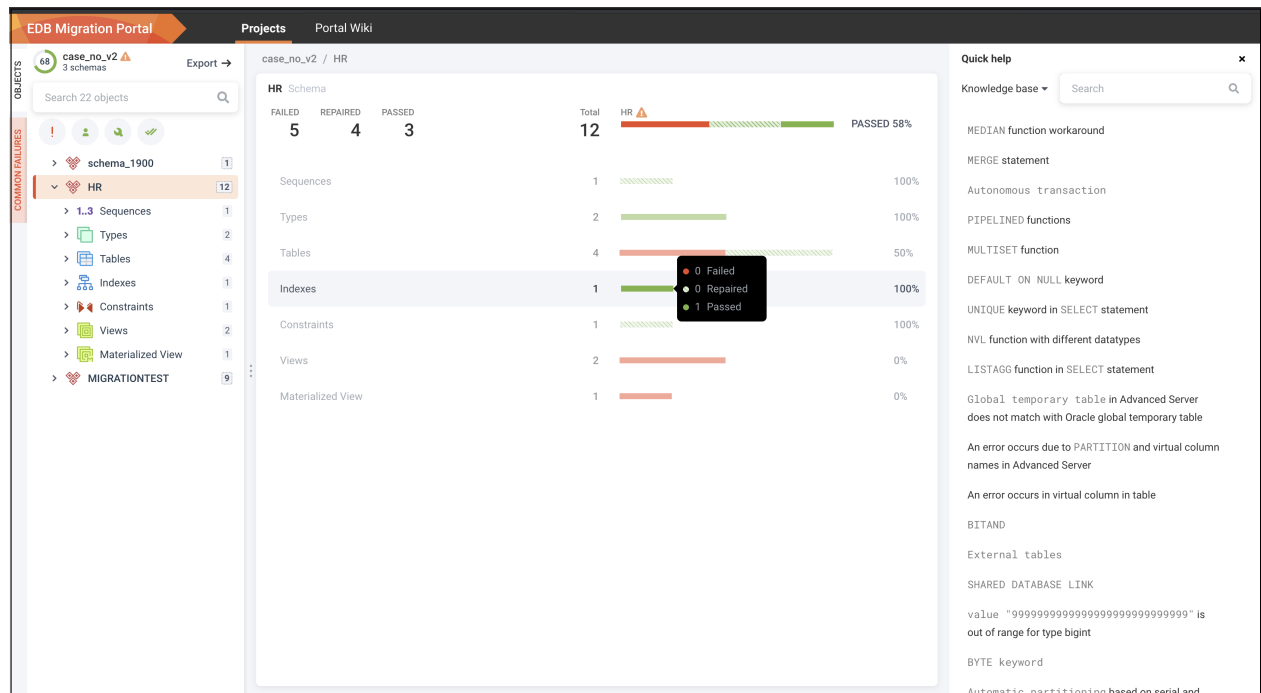


図7 DDL オブジェクトの検証。

- EDBPostgres と互換性のないオブジェクトをクリックして、詳細を表示します。中央のパネルの下部に、修復アクションの詳細が表示されます。

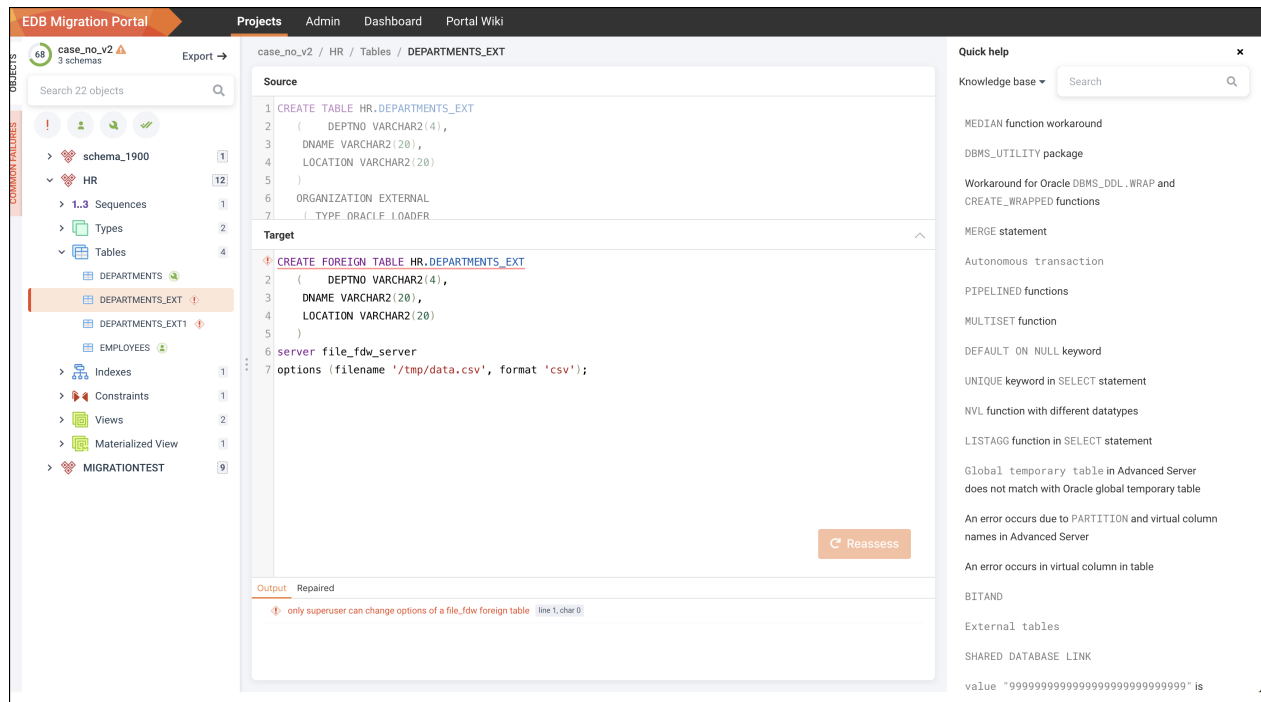


図8 互換性のないオブジェクトが識別されます。

- 右側のパネルのナレッジベース情報を参照して、AdvancedServer とすぐに互換性のないオブジェクトの可

能な回避策を見つけます。ポータル Wiki ページでナレッジベース情報を表示することもできます。

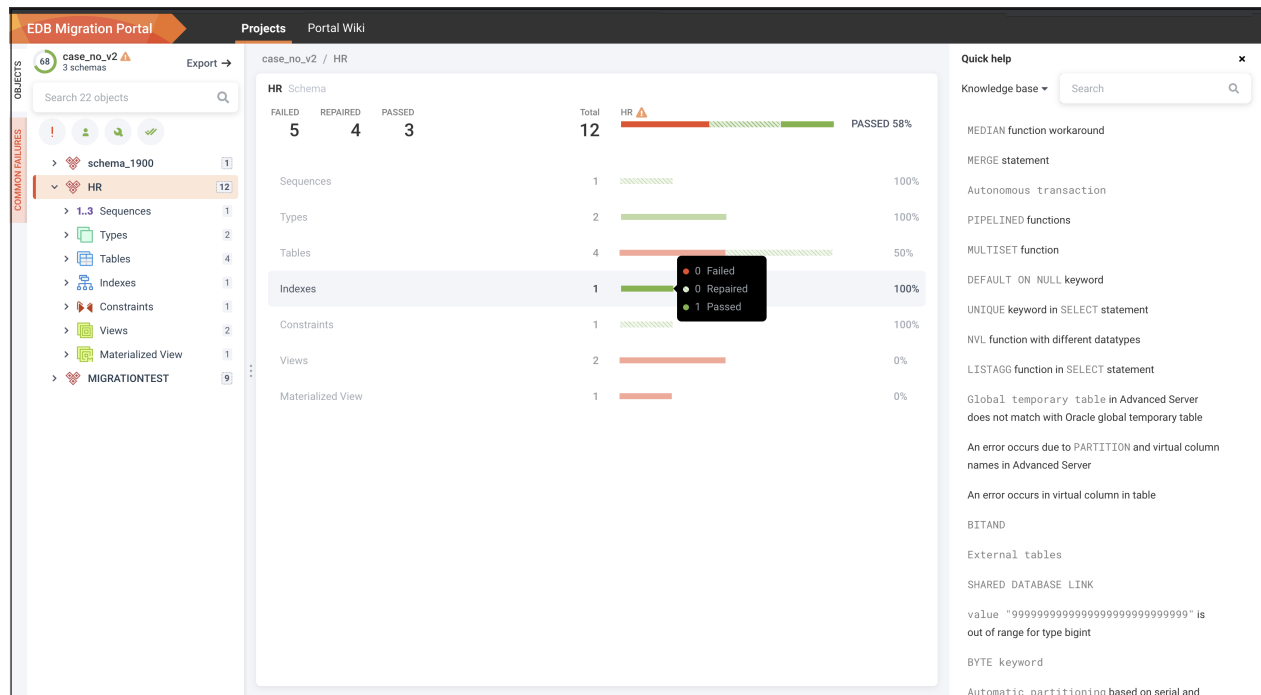


図9 エラーのある評価結果。

12. Knowledge Base タブで、AdvancedServer と互換性のないオブジェクトのエラーメッセージを入力し、Search をクリックできます。

オブジェクトの詳細パネルには、失敗したオブジェクトの回避策または解決策が表示されます。そのオブジェクトの Assessment タブで手動で変更を行い、Reassess をクリックすることができます。

注:再評価中に失敗したオブジェクトが合格した場合、そのオブジェクトの依存オブジェクトも再評価されます。

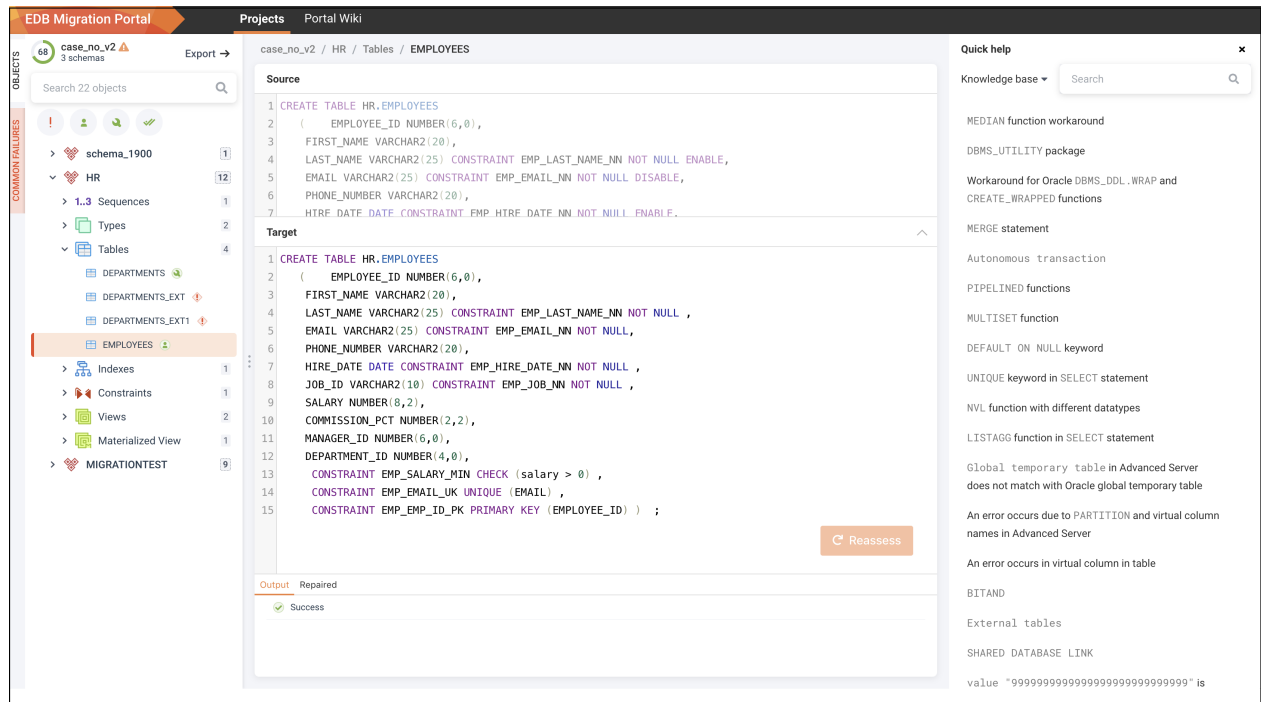


図 10 互換性のないオブジェクトの回避策または解決策。

同様に、互換性のないすべてのオブジェクトに互換性を持たせることができます。

注: 互換性のないオブジェクトの情報または回避策がナレッジベースで利用できない場合は、サポートチームにお問い合わせください。

DDL の操作が終了したら、変更した EDB 互換 DDL を .sql ファイルとしてダウンロードするか、スキーマを *CDS* クラスタに移行できます。。

4.2.1 評価レポートの生成

移行ポータルレポート機能は、プロジェクトに対して評価されたスキーマの高レベルの評価概要を提供します。さらに、レポートは、失敗したオブジェクトと失敗の原因に関する詳細を提供します。

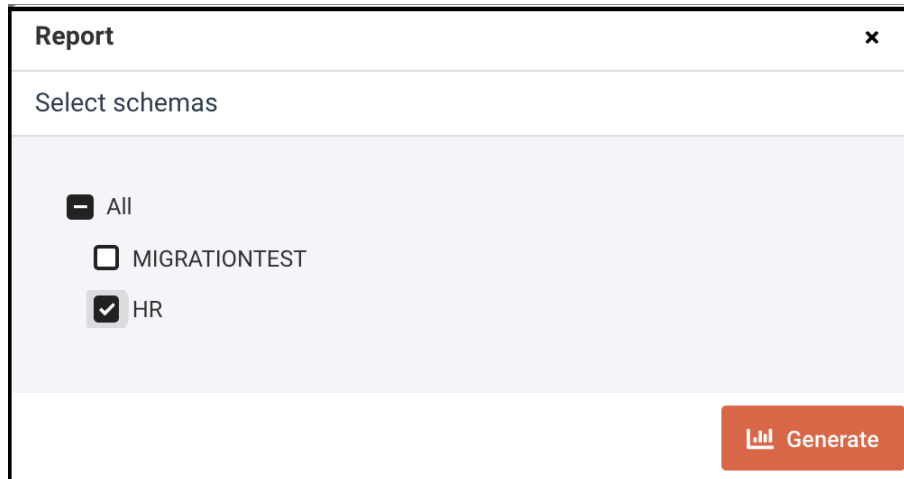


図 11 レポートのスキーマを選択します。

レポートを生成するには:

1. スキーマ選択ダイアログにアクセスするには、Report ボタンをクリックします。
2. レポートに含めるスキーマを選択します。
3. 画面上のレポートを生成するには、Generate をクリックします。

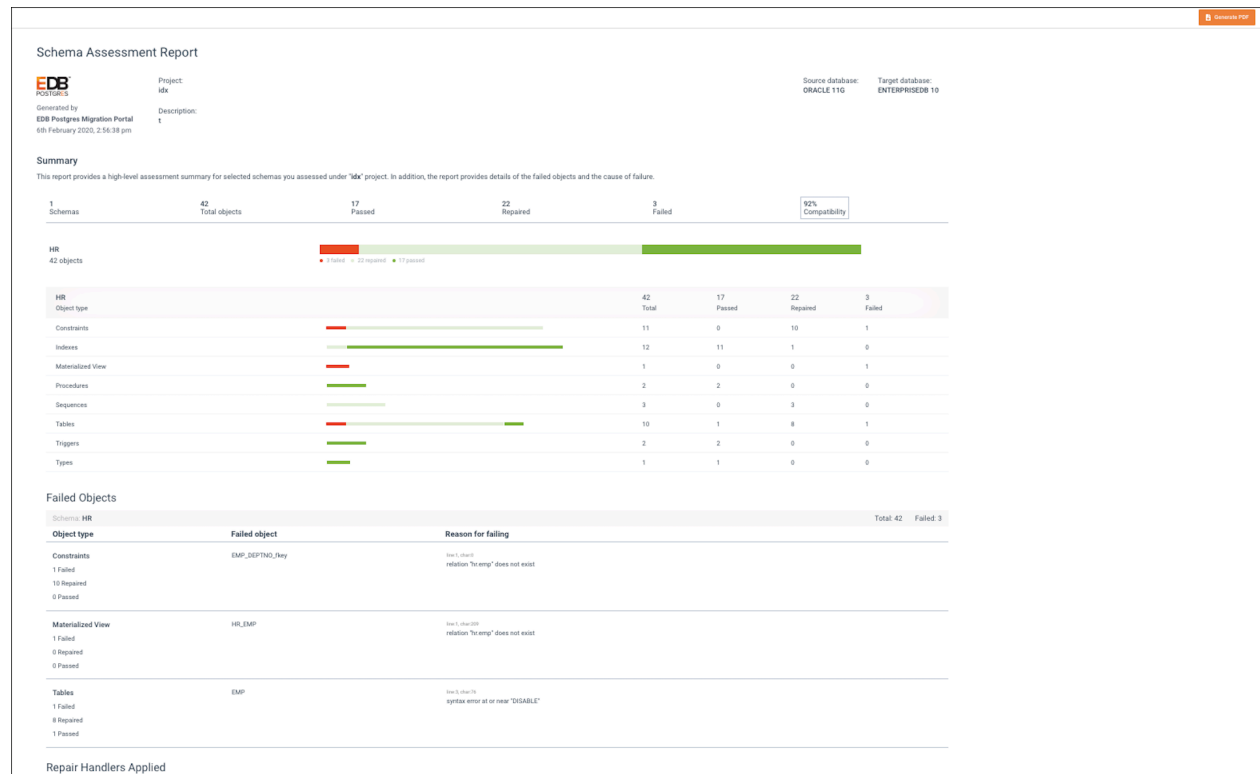


図 12 スキーマ評価レポート。

オプションで Generate PDF を選択して、.pdf 形式でレポートを保存できます。選択したスキーマの下で DDL に適用された個別の修復ハンドラーの数を表示することもできます。

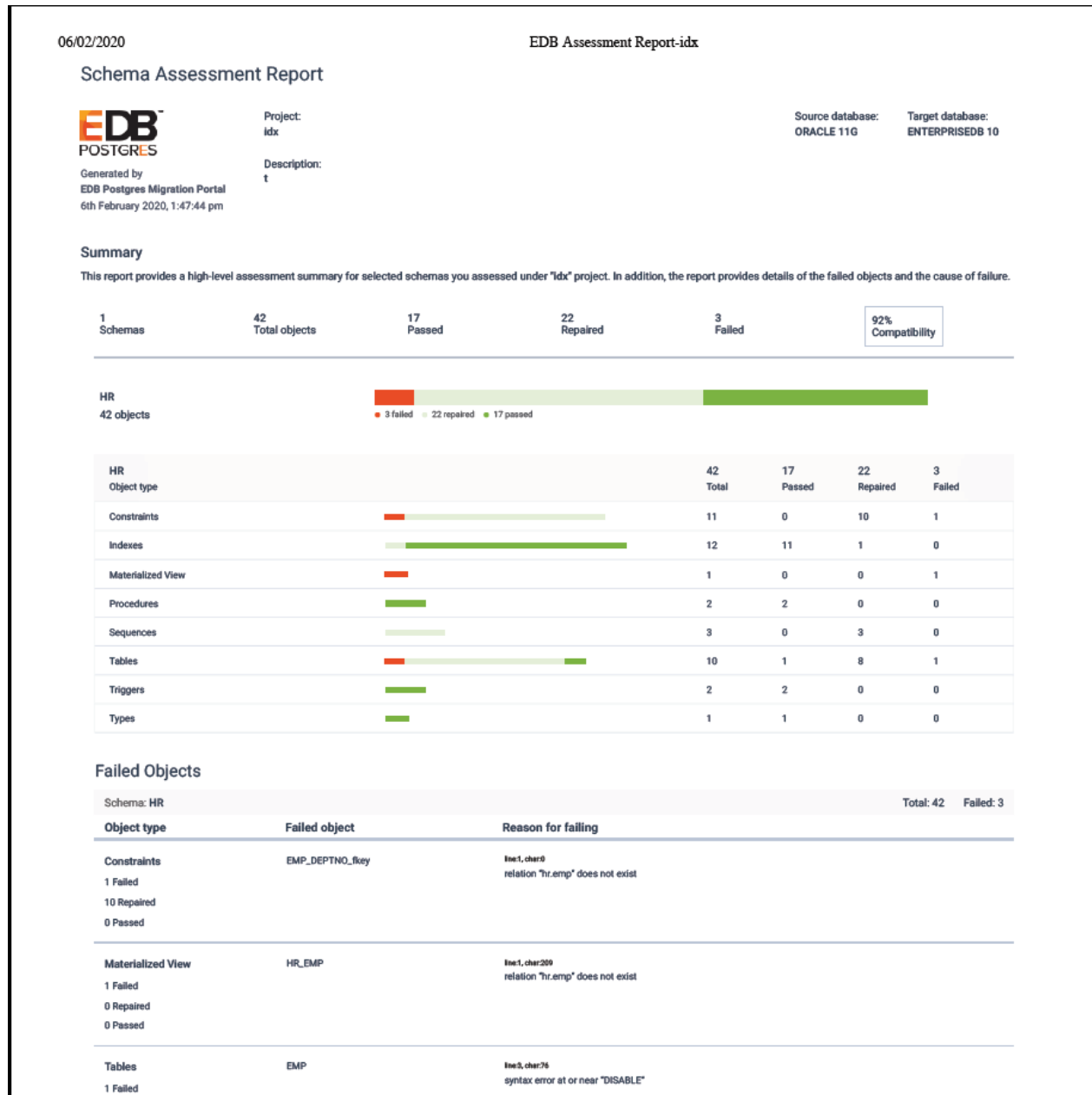


図 13 保存された PDF レポート。

4.3 スキーマの移行

スキーマのエラーを解決した後、pgAdmin、ToadEdge、PSQL クライアントなどのクライアントアプリケーションでスキーマを使用するか、スキーマを EDBCLOUDDatabaseService (CDS) クラスターに移行できます。

注意: ToadEdge を AdvancedServer で使用する方法の詳細については、`ToadEdge@forPostgres` を参照してください<<https://www.quest.com/products/toad-edge/toad-edge-postgres.aspx>>`__。

PSQL または pgAdmin を使用してスキーマをデプロイする

評価されたスキーマが移行ポータルで 100 % 互換であることを確認したら、次の手順を実行して、PSQL または pgAdmin を使用してスキーマをデプロイできます。

1. Project ページで、必要なプロジェクトを選択します。
2. 評価ファイルをダウンロードするには、Export をクリックします。

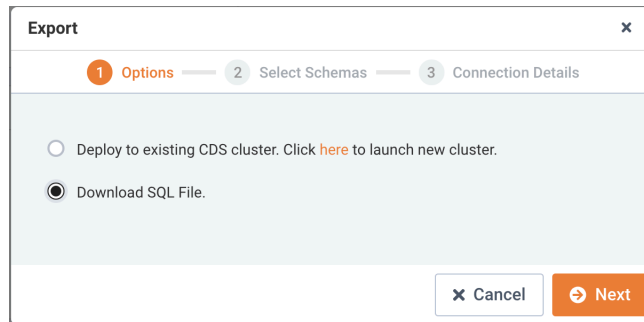


図 14 ファイルのダウンロードオプションを選択しています

3. Download をクリックします。

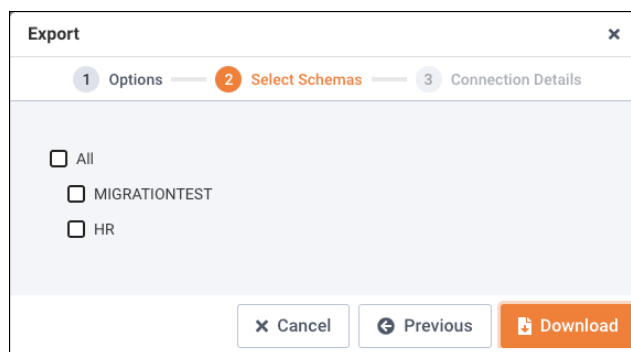


図 15 評価済みファイルをダウンロードしています

4. (PSQL の場合) psql/edb-psql クライアントを使用して目的の AdvancedServer に接続し、次のコマンドを実行します。

```
edb=# /i /exported_ddls_folder/hr_schema/ProjHR_hr.sql
```

5. (pgAdmin の場合) 目的のデータベースに接続し、Open をクリックします。
6. スキーマをアップロードし、Run をクリックします。

AdvancedServer インスタンスは、Oracle モードでインストールして、主要な Oracle 機能とのネイティブな互換性を有効にする必要があります。

4.3.1 CDS クラスターへのスキーマの移行

データベースを CDS クラスターに移行するには、次の手順を実行します。

1. Project ページで、Export をクリックします。
2. Deploy to existing CDS cluster. Click here to launch new cluster オプションを選択します。

新しいクラスターの作成については、`「サーバークラスターの作成」`を参照してください。<https://www.enterprisedb.com/edb-docs/d/edb-postgres-cloud-database-service/user-guides/user-guide/1.1/cds_creating_server_cluster.html>`__。

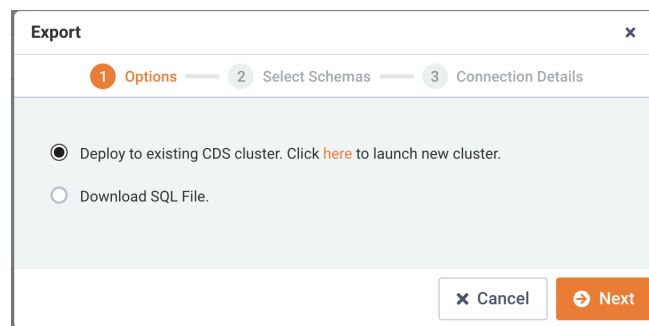


図 16 データベースを CDS クラスターに移行しています。

3. Next をクリックします。
4. 移行するスキーマを選択します。

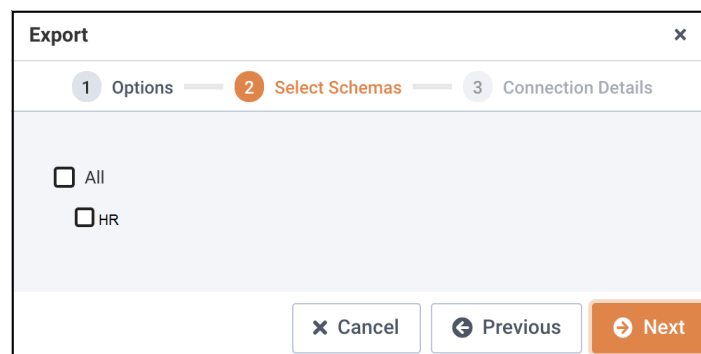


図 17 移行するスキーマを選択してください。

5. Next をクリックして続行します。

Export

1 Options 2 Select Schemas 3 Connection Details

Target database
RHS

Host name/address

Port
9999

Maintenance database
edb

Username

Password
.....

Cancel Previous Test Connection

図 18 接続の詳細を提供します。

6. Connection Details ダイアログボックスに必要な詳細を入力します。

Export

1 Options 2 Select Schemas 3 Connection Details

Target database RHS Edit

Host name/address 52.5.148.59

Port 5444

Maintenance database

Username

Password

Connection successful.

Note:

- Deployment will create a new database RHS on target server, if the database does not exist.
- Ensure that all schemas have a 100% success ratio before deployment.
- Existing schemas with similar names will be dropped during deployment.

Cancel Previous Deploy

図 19 正常な接続のテスト。

7. Test Connection をクリックして、接続の詳細を確認します。

注:Edit をクリックして接続の詳細を変更し、接続の詳細を再テストできます。

8. 接続に成功したら、Deploy をクリックします。

9. 展開の詳細は Deploy ダイアログで確認できます。展開ログをダウンロードするには、Download Summary をクリックします。

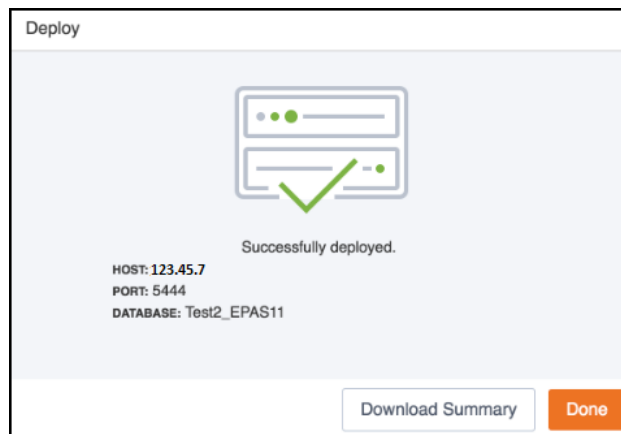


図 20 正常な展開

10. Done をクリックしてウィンドウを閉じます。

4.4 データ移行

スキーマの移行を実行した後、次の手順を実行してデータを移行します。

1. EDBPostgres™MigrationToolkit を使用してデータを移行します。移行ツールキットの使用の詳細については、`EDBPostgres™MigrationToolkitGuide`を参照してください<<https://www.enterprisedb.com/edb-docs/p/edb-postgres-migration-toolkit>>`。
2. MigrationToolkit の toolkit.properties ファイルを構成し、ソースデータベースとターゲットデータベースの接続情報がプロパティファイルで利用できることを確認します。

```
SRC_DB_URL = jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:ORCL
SRC_DB_USER = user_name
SRC_DB_PASSWORD = password
TARGET_DB_URL= jdbc:edb://localhost:5444/migration
TARGET_DB_USER = enterprisedb
TARGET_DB_PASSWORD = password
```

詳細については、`toolkit.properties` ファイルのビルド`を参照してください<[https://www.enterprisedb.com/edb-docs/d/edb-postgres-migration-toolkit/user-guides/user-guide/53.0.1/building\\_toolkit.properties\\_file.html](https://www.enterprisedb.com/edb-docs/d/edb-postgres-migration-toolkit/user-guides/user-guide/53.0.1/building_toolkit.properties_file.html)>`。

3. MigrationToolkit を -dataOnly モードで起動します。テーブル間で外部キーの依存関係を解決するには、キーワード -truncLoad を含めます。

たとえば、次のコマンド:

```
runMTK.sh -dataOnly -targetSchema hr -truncLoad HR
```

このコマンドは、指定された source_schema を target_schema に移行します。データは、ローカルにインストールされた EDBPostgres インスタンスに、enterprisedb という名前のデータベーススーパーユーザーと password のパスワードでロードされます。

注:データのロードを試行する前に、テーブルが切り捨てられます。

第 5

高度なデータ移行

並列データロードを必要とする大規模なデータベースでは、次のいずれかの方法を使用できます。

- EDBPostgres™AdvancedServer データベースリンク機能を使用します（Oracle データベースとの互換性のため）。

または

- Dblink またはデータベースリンクスタイルの移行を使用します（データに CLOB データが含まれている場合）。

詳細については、`EDBPostgres™MigrationToolkitGuide`を参照してください<<https://www.enterprisedb.com/edb-docs/p/edb-postgres-migration-toolkit>>`__。

結論

EDBPostgres™ 移行ポータルユーザーガイド

Copyright©2019-2020EnterpriseDBCorporation。全著作権所有。

EnterpriseDB®Corporation34CrosbyDrive、Suite201、Bedford、MA01730、USA

T+17813573390F+19784671307Einfo@enterprisedb.comwww.enterprisedb.com

- EnterpriseDB および PostgresEnterpriseManager は、EnterpriseDBCorporation の登録商標です。EDB および EDBPostgres は EnterpriseDBCorporation の商標です。Oracle は Oracle、Inc. の登録商標です。その他の商標は、各所有者の商標です。
- EDB は、EDBPostgres 製品が存在する場合、ログオン UI の設計、コーディングのベストプラクティスの確立、レビュー、および検証を行います。EDB は、追加の入力コンポーネントについても同じアプローチに従いますが、製品の性質上、制限付きの検証が可能な信頼できるユーザーが入力および送信するフリーフォーム SQL、WMI、またはその他の文字列を受け入れることが必要になる場合があります。このような場合、ユーザーが誤った入力や危険な入力をするのを防ぐことはできません。
- EDB は、認証済みの信頼できるユーザーからのフリーフォーム SQL、WMI、またはその他の潜在的に危険な入力を受け入れる製品に機能を追加する権利を留保しますが、そのようなすべての機能が最小限のリスクを提供できるように設計およびテストされることを保証します。可能、スーパーユーザーまたは同等の権限が必要です。
- EDB は、すべての潜在的な脅威を予測できること、または予測できることを保証しません。したがって、私たちのプロセスでは、すべての潜在的な脆弱性が対処または検討されたことを完全に保証できません。

EDB 移行ポータルの使用, 6

knowledge base, 11, 13

Migration Toolkit, 32

pgAdmin, 28
psql, 28

repair handlers, 13
resources, 13

schema assessment report, 24, 25
schema connection details, 30
supported browsers, 5
supported databases, 5
supported object types, 17, 18
supported operating systems, 5

test schema connection, 30
Toad Edge, 28

サポートされているバージョン, 5

スキーマの移行, 28
スキーマ抽出の実行, 15
スキーマ評価の実行, 20

データベースの移行, 14
データ移行, 32

移行ポータル, 1
移行ポータル Wiki ページの概要, 13
移行ポータルのホームページの概要, 8
移行ポータルプロジェクトページの概要, 10

結論, 34
高度なデータ移行, 33
新機能, 2